学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業　実践記録

研　究　主　題

読み取る言語能力を高め，自分の思いや考えを意欲的に伝えることができる児童生徒の育成
～　主体的・対話的で深い学びの授業づくりを通して　～

土佐町立土佐町小・中学校

実践概要：
本校は「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け，小中学校で協働して学び合いの質の向上を目指した授業改善を進めてきた。小学校では国語科を中心に，中学校では各教科において，教師が単元のゴールを設定し学びの方向を示すことで，児童生徒が見通しをもって学習に取り組めるようにした。また，昨年度半ばから「対話」をキーワードに，学び合いの質を向上させるため，ペア活動やグループ活動の際に友達から学んだことをノートやワークシートに赤で記入する活動を取り入れた。どの教科の学習においても，学び合うことを常に意識して授業を展開したことで，友達の意見を聞き自分の考えを深めることができる児童生徒が増え，振り返りに書く内容も向上してきた。また，学習に対する児童生徒の意欲や対話の質も高まってきている。

キーワード：対話，語彙力の向上，図書館資料及び新聞の活用，深い学び

１．研究仮説

教材を読み取る視点を具体的に示し，教師は児童生徒の考えや話合いを見取りながら指導・支援することで，対話が活性化し深い学びにつながるであろう。

２．実践方法

（１）　授業改善
①対話を生み出す授業展開の構築
②学びのスキルの定着
（２）　基礎学力の定着
①系統的，計画的な反復学習の実施と評価の工夫
②語彙力を高める活動の工夫
③ノートの指導の徹底
（自学ノート・モデルノート）
（３）その他
①図書館資料を活用した授業
②読書意欲を高める図書環境

３．実践内容

（１）　授業改善
① 対話を生み出す授業展開の構築
・ゴールから組み立てる単元・授業構想の工夫を行った。
・三色の付箋の活用した授業の見取りを行った。（写真１）
青：対話が成立した場面
赤：対話が成立しなかった場面
緑：赤を青にするための手立て

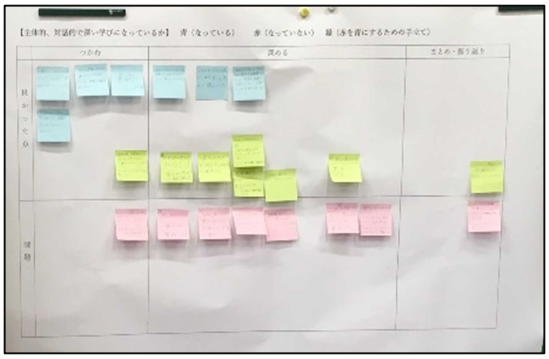


写真１：授業後の話合いシート

・各種学力調査の分析を行い，課題のある児童生徒を見取り，課題解決のために取り組んだ。
・授業構成の中で意図的に対話を仕組むことで，学びの三か条を児童生徒に定着させ，学び合いの質の向上を図った。
・研究便り[ＫＥＮＫＹＵ2019]による学びの共有
授業研の後，授業者の振り返りや，参観者からの評価を書き，全体に紹介して学びを共有した。（表１）

６月２８日（金）１時間目　５年「新聞記事を読み比べよう」

すばらしい点	明日からの提案
○事前に語彙調べができている点	・本文とワークシートを一枚に合体させると，児童の手間が省ける。（置きなおしたり，片付けたり）
○教科書本文をコピーして書き込ませている点 ・スモールステップで確実にことばを掴ませている。	・構成は，色分けで視覚支援をしてはどうか。（全て赤で囲むのではなく，色を使って）

○発表言葉 「○○さんの意見と似ていて，～と思いました」 ○課題が早く終わった児童をミニ先生として動かしている点	・時間配分（少なくてもまとめに入ったとき，残り５分あると良い）
○辞書が手元にある。 ・授業中に分からない言葉を調べている児童もいた。 ○ワークシートを使う利点（ゴールが見える・何を学ぶか分かる） ○音読の声がいい。そろっている。	・班での対話は距離があるし，人数も多い。 （班活動の対話） →早く対話が終わったら，児童に前に書きに来させることにすれば，時間が有効活用できる。

表１：KENKYU2019　No，6 より

②学びのスキルの定着

・授業構成の中で，「友達のために発言する・友達の意見から学ぶ・学んだことを友達に伝える」場面を常に確認しながら取り組んだ。

（２）基礎学力の定着

①系統的，計画的な反復学習の実施

・朝学習の 10 分間に，音読メソッド（徹底反復陰山メソッド）を使って声を出して脳の活性化を図った。

・日常的な日記作文指導に加えて，エッセイ講座(5，6 年)で書く力を養った。

・放課後 10 分間の，チャレンジタイムによる基礎的な学習内容の定着と，水曜日放課後の加力学習で活用力の向上を図った。

②語彙力を高める活動の工夫

・読書意欲を高める活動の推進

（中学校）

味見読書，おすすめ本のポップづくりを通して，読書に興味をもたせるようした。

（小学校）

年間貸し出し冊数の目標を設定し，意欲的に読書に取り組めるようにした。72%の児童が目標冊数を達成した。学年に応じた課題図書を設定して，読書の質を高めた。全学年で国語辞典の活用を行った。（表２）

	内容	めあて
低学年	ことばあつめ	国語辞典の使い方に慣れ，言葉の知識を増やそう
中学年	辞書でしりとり	
高学年	言葉のマンダラ	
中学校	朝読書で「自分の言葉を増やそう！」	読んでいる本から言葉を集め，自分の言葉として使えるようになろう

表２：国語辞典　スキマ時間レシピの活用

③ノートの指導の徹底

・月別に教科を決め，自学ノート・マイノートコンクールを実施し，工夫されたノートのモデルを掲示して，学習に効果があるノートの作り方を指導した。

（３）その他

①図書館資料を活用した授業

・新聞活用授業

教科等との関連に配慮しながら，学年ごとに段階的に取り組んだ。（表 3）

１年	お気に入り写真のスクラップづくり （生活科）
２年	お気に入り記事のスクラップづくり （生活科）
３年	新聞記事に見出しをつけよう （総合的な学習の時間）
４年	みんなで土佐町小学校の紹介新聞を作ろう （総合的な学習の時間）
５年	学習のまとめ新聞づくり （理科，総合的な学習の時間）
６年	学習のまとめ新聞づくり （理科，社会科，総合的な学習の時間）

表３：新聞活用授業

②読書意欲を高める図書環境

・教科等との関連本の整備

各教科等に関連する図書を分類に関係なく各学年ごとに書架に配置し，教科等で興味をもったことを読書に結び付けられるようにした。（写真２）

・学校新聞紹介コーナー

学校図書館前の掲示板に，児童生徒の作成した新聞を掲示するコーナーを設置し紹介した。（写真３）

・先生のおすすめ本

毎月二人ずつ，小・中学校の教員におすすめ本のコメントを書いてもらい，学校図書館前に掲示した。児童生徒が手に取りにくい本に興味をもたせ，読書の幅が広がるよう工夫した。（写真４）

写真２：教科との関連本の整備

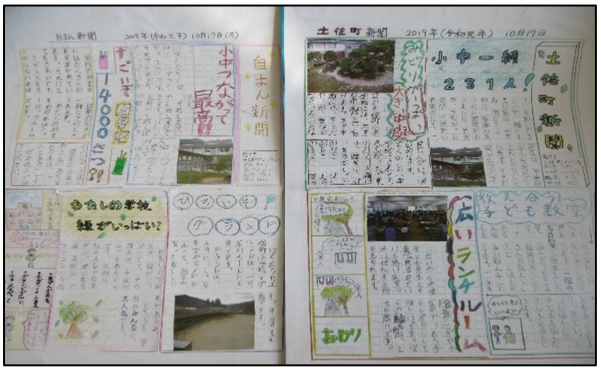


写真３：学校新聞紹介コーナー

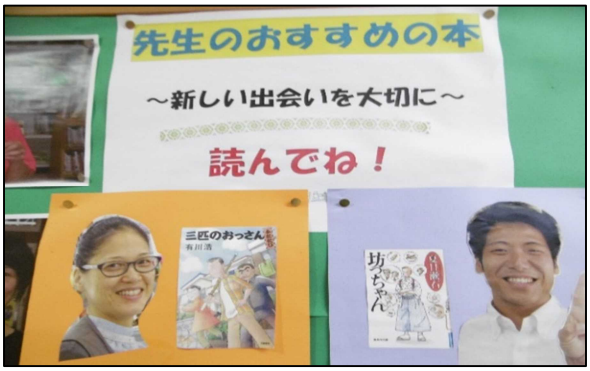


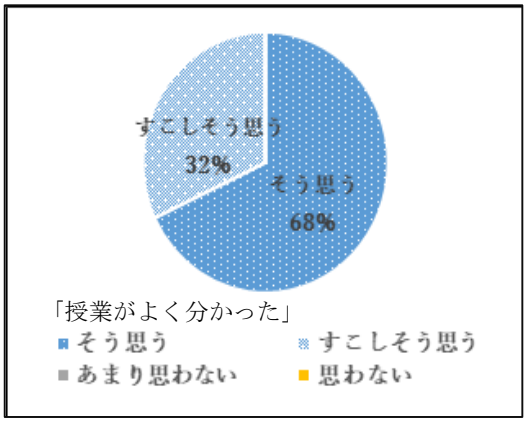
写真４：先生のおすすめ本

４．成果と課題

≪成果≫

（１）学習意欲向上と学力定着

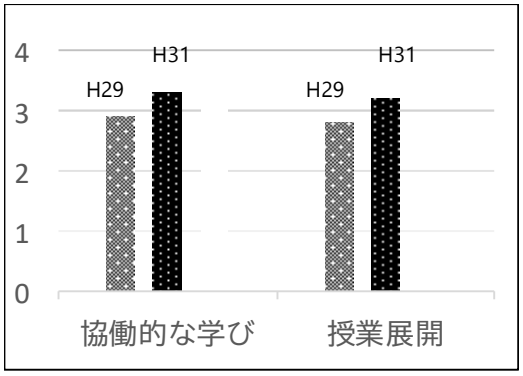
平成 31 年度児童生徒の振り返りアンケートにおける「授業がよく分かった」の項目で，肯定的評価が 100%を達成した。（図５）どの授業でもゴールイメージをもたせて学習するスタイルが定着したこと，基礎学力の定着を目的として個々の力を分析した上で加力指導を行ったことが「授業が分かる」という意識につながったと考えられる。（グラフ１）



グラフ１：平成 31 年度児童生徒の振り返りアンケートより

（２）聞く・話す力の向上

授業力チェックシート（教師用）における「ねらいを達成するために，話合いや交流の目的を明確にしている（協働的な学び）」の項目が，平成 29 年度の平均 2.2 に対し平成 31 年度は平均 3.3 に向上した（４段階評価）。本年度の「話す・聞く」の肯定的評価の目標は 80%であった。「話す」83%「聞く」96%と目標を達成した。授業研究を進める中で，「対話」が見られた場面やそのための手立てなどを指導案に入れ，その視点で参観することで教員の意識が高まったと思われる。児童生徒の反応やつぶやきを生かしたり，つなげたりしながら授業を展開している」の項目が，平成 29 年度の平均 2.8 に対し平成 31 年度は平均 3.2 に向上した。（グラフ２）0.4 ポイントの向上ではあるが，目指すゴールに向かって授業を展開することや、児童生徒主体の授業となるよう授業の展開を工夫したことが成果である。



グラフ２：授業力チェックシートより

（３）資料の読み取り

「教科の特質を生かした方法で自分の考えを表現できるよう，手立てを工夫している」の項目の肯定的評価の目標値を 90%としていたが，年度当初 65%，年度末 87.5%と 22.5%大きく向上した。常に単元のゴールイメージをもたせ，自分の考えを書いたりまとめたりする機会を多く設定したことで自信をもって発言できるようにしたためと考えられる。

≪課題≫

（１）「問い」が生まれる授業展開の構築

ゴールを意識した授業展開は行われつつあるが，児童生徒に「問い」が生まれる学習展開ができてないため，意欲的にゴールに向かう意識を高められていない。教師主導でなく児童生徒が「問い」を連続させていく授業スタイルを学び，実践に生かすことにつなげなければならない。

（２）「深い学び」につながる対話の工夫

ペアやグループでの活動は取り入れているものの，対話を成立させるためのスキルが身に付いていないため，常に学び合いが成立しているとは言えない。また，対話が成立していても，意見をつないで考えを深めることにつながりにくく，教師と児童生徒の一問一答形式になってしまうことがある。スキルを身に付ける方法，意見をつなぐ方法を明確にして日々の授業で取り組んでいく。

（３）学力の向上への具体策の設定

平成 31 年度の全国学力・学習状況調査における正答率の割合は，全国平均を上回っているのは小学校算数 1.4 ポイントであった。下回るのは小学校国語−2.8 ポイント，中学校国語−1.8 ポイント，数学−4.3 ポイント，英語−4 ポイントであった。

標準学力調査の結果は，小学校は全国比 110.7%，中学校は 95.8%であった。評定１の割

合は小学校 8.5%，中学校は 36.8%という結果であった。

高知県学力定着状況調査は県平均を上回ることが目標であったが，国語が+2.2%算数は-2.9%であった。

教科や学年によって定着にばらつきも見られる。全ての教科等で授業のスタンダードを徹底し，個々の学力状況を把握するとともに全体の傾向を掴み，必要に応じて個に応じた加力指導や全員が参加できる授業改善等の取り組みが必要である。

（４）学びのマナーの徹底

いつまでにどのような力を付けるのか明確でないため，スキルの定着が弱かった。計画的に取り組めるように，月ごとに付けたい力を確認し合う時間をとる，定着状況を確認する授業評価を行う等，意識を継続することへの工夫が必要である。